

取組の目的

育成を目指す資質・能力を実現に付けるために必要な学習過程を実現するためのアクティブ・ラーニングの視点から授業改善を行い、知的障がい特別支援学校におけるアクティブ・ラーニングの意義や指導方法について提案する。

小・中学部

各学部の挑戦

高等部

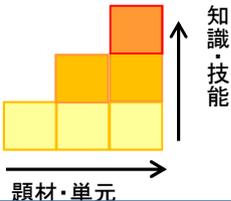
- 言葉で考えを表現することが難しい児童生徒が主体的に考えたり対話的に学んだりする方法を探る
- 発達段階が様々な集団での授業をどう行うか

- 従来の作業学習の中に主体的・対話的で深い学びの視点をどう入れるか

成果

計画

題材・単元構成
もっている知識・技能を活用して新たな知識・技能を習得できるよう題材や単元を構成する



授業構成

思考→探求→習得

考える 予想する 実践する 振り返る 知る

未知の状況、小さな謎、解決したいと思う課題等を設定

授業づくり

考えたり実践したりする時間であることを明示

- 「〇〇タイム」と名前を付けたり合図の音を鳴らしたりする

考える時間の確保

- 「戦略会議」
- 一人一人が自分の考えをもつ→ペアやグループで対話し考えを深めたり整理したりする

教具を使って考える

- カードなどの半具体物を操作して考える・操作して考えたことを表現する

予想・比較・選択したりして考える

- 考えが表現しやすい方法を提示する

授業中

児童生徒の様子に応じた活動の工夫

- 見本となる児童、模倣して学ぶ児童の2つの様子で捉える (小)理由や根拠を示して考えを言葉で表現する生徒、考えを言葉や動作で表現する生徒、模倣して考える生徒で捉える (中)

主体的・対話的で深い学び

資質・能力の育成

キャリア発達支援

考察

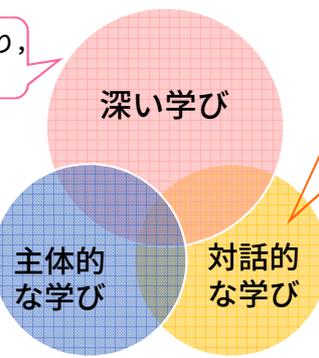
★主体的な学びと対話的な学びを土台として深い学びに向かう

例：カードを使って友だちと一緒に操作して考える活動

自分の考えが整理されたり、新たな知識を得たりする

カードを介して自分の考えを表したり友だちの考えを見たり聞いたりする

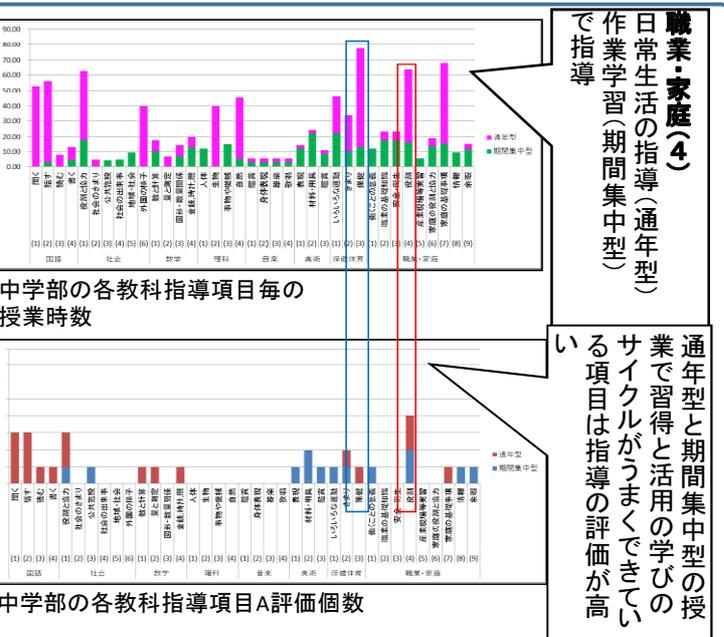
カードの操作により自分で考えることにわくわくして、積極的に取り組もうとする



★習得と活用の学びのサイクルのある年間指導計画

知的障がいのある子どもにとっての深い学びとは～現在の子どもの姿と今年度の実践から～

- 学んだこと（知識・技能だけでなく、見方や考え方も含む）を生かせる場面に自分で気づき活用できること
- 断片的で曖昧だった物事概念と言葉が結びつき、その物事の理解が深まること (整理中)



「もっている知識・技能を活用して新たな知識・技能を習得」を様々な学習場面で繰り返すと指導の評価が高い

